

## 武漢事務所週刊ニュース (2017. 6. 10-2017. 6. 16)

2017年6月16日

### 武漢は全国2番目の「キャッシュレスシティ」を造る

昨日、武漢市政府はアリババ傘下のアリ金融サービスと「武漢市“キャッシュレスシティ”建設戦略協力協定」を締結した。当協定の実施に伴い、携帯電話決済分野（携帯電子マネー）で武漢は杭州に次ぐ「キャッシュレスシティ」になる見込み。

携帯電話決済の主なユーザは武漢の在籍大学生である。武漢には百万人以上の在籍大学生がいて、世界でもナンバーワンの学生数である。アリ金融サービスの統計データによると、武漢在住人口は約1100万人で、その内アリペイ（ALIPAY）のユーザが約900万、アリペイの使用率はアリババグループの本社がある杭州市に次ぐ第2位となっている。

2017年6月14日

### 湖北能源、東西湖でガスタービンコージェネレーションプロジェクトを建設

昨日、湖北能源集団と武漢臨空港経済技術開発区管理委員会は、ガスタービン及び関連プロジェクト枠組み協議書に調印した。40億元（680億円）を投資して東西湖区域に天然ガスタービン発電所及び組み合わせの熱供給配管ネットワーク、天然ガス直接供給配管などの建設プロジェクトがあり、計画設置容量は90万キロワットとなる。

データによると、東西湖区エリアは去年電気使用量が1時間で26.44億キロワットだった。上述のガスタービンコージェネレーションプロジェクトの最大熱供給能力が460トン/1時間で、年間発電量が40.48億キロワットアワーで、臨空港経済技術開発区産業群の熱、電気、冷気の需要及び現地住民の暖房の需要を満たすことができる。

石炭タービンに比べて、このプロジェクトは天然ガスをエネルギーとして、さらに省エネとエコができる。プロジェクトが完了し操業を開始すれば、毎年燃焼用石炭33.2万トン、窒素酸化物排出を453トン、硫化物排出を205トン、二酸化炭素排出を163.1トン減らすことができる。